

広報 NASUKARASUYAMA

那須烏山

— No.100 —

2014
January

1

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

第9回那須烏山マラソン大会	2
地域で活躍する女性から学ぶ	5
第7回市議会定例会	6
人権フェスタ2013イン那須烏山	8
まちの話題	14
インフォメーション	16

市イメージキャラクター



やまどん ここなす姫 からすまる



2014年がスタート !!

那須烏山 マラソン大会

第9回



1754人が快走

那須烏山市の誕生から毎年開催されている「那須烏山マラソン大会」も今年度で9回目を迎えました。参加人数は年々増え、市民ランナーにとどまらず、日本各地からマラソン愛好者が足を運ぶ、市的一大スポーツイベントとなっています。

今月号は、今年度の大会の様子を紹介しつつ、本大会の模様を振り返り、健康づくりとマラソンについて考えてみます。



那須烏山路で 健脚を競う

12月1日(日)、保健福祉センターを発着点に「第9回那須烏山マラソン大会」が開催され、県内外から1754人のマラソン爱好者が冬空の下、那須烏山路を駆け抜けました。

開会式では、山田廣明実行委員長が、「今日は、心を込めて、おもてなししたいので、皆さんケガのないように楽しんでください」とあ

いさつ。そして、北は北海道、南は広島県から参加した13人のランナーに、「はるばる来たで賞」として、市の特産品が贈られました。

その後、ウォーキング、ハーフコース、5キロ、3キロ、2キロ、親子コースが次々とスタート。「那須烏山ふるさと太鼓保存会」の皆さんが力強い演奏で選手を送り出しました。

また、会場では、毎年大好評の食生活改善推進団体連絡協議会による「豚汁」が2000食無料配布さ

れ、選手たちの疲れた身体を癒やしました。

本部テント前では、各コースの選手がゴールするたびに、種目ごとの表彰式が開かれ、大会役員から、上位入賞者に表彰状や記念品が手渡されました。結果は、左記のとおりです。

内容の見直し繰り返して…。

平成17年の「第1回那須烏山マラソン大会」は、旧南那須町と旧烏山町の「健康マラソン大会」を統合

部門別上位入賞者(敬称略)

■2kmコース

【小学生5・6年男子】①山里大雅(埼玉県)大会新 ②塩野目英(那須烏山市旭) ③植村拓真(那須烏山市森田)

【小学生5・6年女子】①梅村光理(那須塩原市) ②折原萌瑛(益子町) ③吉澤ひまり(埼玉県)

【親子(幼児~小学2年生)】①峰岸正浩・侑正(小山市) ②疋田孝路・翔大(宇都宮市) ③清水寿之・大貴(宇都宮市)

【親子(小学3・4年生)】①南出直宏・直人(東京都) ②林壮一・壱成(宇都宮市) ③石川孝広・陽太(那須烏山市鴻野山)

■3kmコース

【中学生女子】①斉藤華(真岡市) ②福元唯美(茨城県) ③植村麻菜(那須烏山市森田)

【一般女子】①尾関真衣(福島県) ②田村史織(那須塩原市) ③石川景子(茂木町)

【男子全般】①鈴木裕野(那須烏山市中央)大会新 ②堀江裕也(茨城県) ③柳田尚皓(那須烏山市福岡)

■5kmコース

【中学生男子】①小川圭斗(福島県) ②小野寺勇飛(福島県) ③小林知真(那須烏山市小倉)

【一般男子39歳以下】①山本悠平(高根沢町) ②若山謙一(埼玉県) ③笠井直也(宇都宮市)

【一般男子40歳以上】①服部隆志(真岡市) ②星誠(日光市) ③井上森氏(宇都宮市)

【一般女子39歳以下】①溝上優(静岡県) ②高橋涼子(東京都) ③笠井瞳(宇都宮市)

【一般女子40歳以上】①仲江川久美子(栃木市) ②佐藤文江(宇都宮市) ③安藤富美子(大田原市)

■ハーフマラソン

【一般女子18歳以上】①青山怜佳(那須烏山市月次) ②八木景子(茨城県) ③石戸志奈(那須烏山市野上)

【一般男子16歳~39歳】①関博紀(宇都宮市) ②塚原健司(福島県) ③高野駿(那須烏山市滝)

【一般男子40歳~49歳】①門井慎(埼玉県) ②木曾哲男(茨城県) ③大久保幸夫(埼玉県)

【一般男子50歳~59歳】①池田博(茨城県) ②白井文人(福島県) ③中島武(福島県)

【一般男子60歳以上】①大木己芳(那須烏山市野上) ②郡司美文(高根沢町) ③鎌田雄二(大田原市)

■ウォーキングは記録なし

その後、アンケート調査から参加者の声を参考に、特別賞の変更やコースの年齢制限など、より良い運営のために内容が見直されました。第5回大会から「飛び賞」を新設し、第8回大会から新たに「ハーフ一般男子60歳以上」コースを設けるなどして現在に至っています。

参加者からは、「市街地から山麓、河川敷と景色も変化に富んで飽きない」、「全体の雰囲気も良く、地元のおばあちゃん達の声援もうれしい」、「飛び賞や遠来賞など多くの

県内有数の大会に

人が受賞できるチャンスがある」「温泉割引、豚汁、みかんサービスなどのおもてなしが嬉しい」など、好評を博しています。

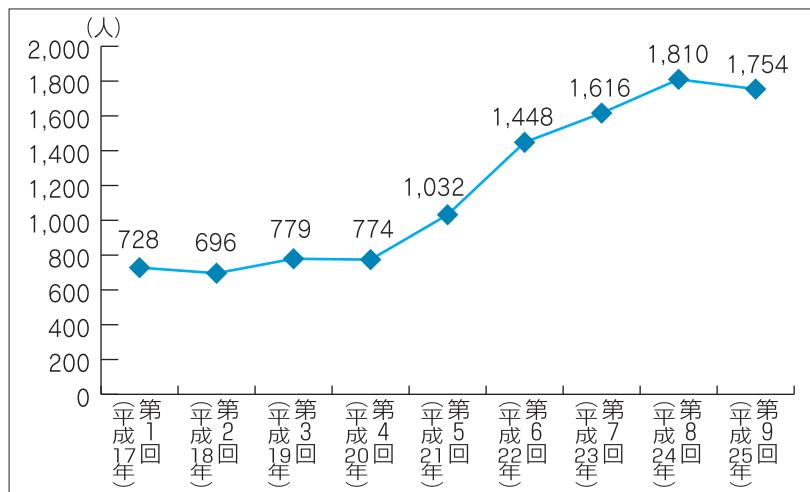
参加者の推移を見ると、9年間で約2.5倍に膨んでいます(4ページ図表1参照)。

市では、他のマラソン大会で本市のパンフレットを配布したり、県内のスポーツ店にチラシや広告



①子どもからお年寄りまで参加したウォーキング。②声援の中のラストスパート! ③ハーフマラソン走りきってガツポーズ。

図表1：那須烏山マラソン大会の参加人数推移



①ハーフコース、スタート3分前…。②那須烏山ふるさと太鼓保存会による力強い演奏。③ゴール後の一コマ。④お父さんお母さんも頑張って！⑤大人気の豚汁コーナーに行列。⑥最後まで頑張りました！⑦上位入賞記念にパシャリ(ハーフマラソン一般男子16歳～39歳の部)。⑧亀仙人たちも参加。⑨沿道の応援もほほえましく見守る。

を設置するなど、広報活動に力を入れてきました。その結果、認知度向上につながり、全体の3分の2が市外からの参加者となりました。また、数年前からマラソンブームも参加者が増えた要因となっています。大阪マラソンや神戸マラソン、東京マラソンなど大都市を走るマラソン大会が新しく開催され、モデルや芸能人がランニングを始めるなど、これまでス

ポーツにあまり関心がなかつた人も、マラソンに興味を持つようになりました。マラソンには、「ダイエット効果」、「肩こり・冷え性の改善」、「気持ちのリラックス」など、様々な効果もうたわれ、健康維持を目的とした女性ランナーや高齢ランナーも年々増えているようです。

◇
来年は記念すべき10回大会となる目標に、マラソン愛好者や地域ボランティアも巻き込んで市ぐるみで大会を盛り上げていくことにしています。

適度な運動は血の巡りを良くし、心も身体も健康にしてくれます。

最初からマラソンは難しいという人でも、まずはゆっくりとウォーキングから始めてみてはいかがでしょうか。少しずつでも自分のペースでやってみると、それを続けることが健康づくりの第一歩になります。



男女共同参画社会の推進 地域で活躍する女性から学ぶ

栃木県女性教育推進連絡協議会主催（浅海伸子会長）による県北地区研修会が12月7日(土)、保健福祉センターで開かれ、県内で活躍する各支部の女性団体連絡協議会委員等115人が参加しました。

研修は、県北・県央・県南ブロックごとに開催しており、ブロックごとに毎年持ち回りで会場を担当しています。県北地区は、5年ぶりに本市が会場となりました。

当日は、「男女共同参画の推進～まちをさらえる女性たち～」と題し、那須烏山市で活躍するボランティアやNPO法人の女性4名による事例発表が行われ、それぞれが女性の観点から「子育て」「地域医療」「居場所づくり」「まちづくり」の分野での活動を報告し、参加者は真剣に耳を傾けました。

事例発表後には、当日の感想を詠んだ短冊に、鳥山和紙を貼る「ちぎり絵体験」など、趣向を凝らした企画が用意され、参加者を楽しませました。

実行委員長を務めた市女性団体連絡協議会会长の小堀弘子さんは、「さまざまな分野で活躍する事例を参考に、活動を推進して欲しい。」と話していました。



活動発表に耳を傾ける大勢の参加者。

- 事例発表者（発表順、敬称略）
 - △ 事例発表者（発表順、敬称略）
 - ・子育て応援団
 - ・NPO法人「野うさぎくらぶ」
 - ・高齢化社会に向けて
 - ・訪問看護ステーション「あい」
 - ・代表 横山孝子
 - ・自宅を開放し居場所づくり
 - ・里風鈴
 - ・代表 森林早知子
 - ・夢のあるまちづくり
 - ・市民カフェ35番館
 - ・代表 萩原宣子



救急車の仕組みを見学する視察団。

- 昨年5月に本市が消防自動車3台を寄贈したタンザニア連合共和国から12月3日(火)、内務省消防救助隊のピウス・ニヤンバチヤ局長等4人が本市を訪れ、烏山消防署や1月に完成予定の同新庁舎を見学しました。
- 当日は、南那須地区広域行政事務組合消防本部職員が施設を案内し、消防署員の
- 救命訓練などを披露しました。
- ニヤンバチヤ局長は、「訓練の様子がとても素晴らしかった。ぜひ、タンザニアの若手の消防職員を研修させてほしい。また、寄贈された消防車は消火に大活躍している。今後も支援していただけるとありがたい」と話していました。

那須烏山報徳会

助け合う心「炊き出し体験」

本市周辺地域は、天保7（1836）年の豪雨による畑の冠水や大霜などで作物に甚大な被害があり、領民は飢えに苦しんでいました。この時、二宮金次郎の援助で「お救い小屋」が建てられ、同年12月1日から翌年の5月6日まで延べ11万2539人に無償で粥を振舞い、領内に1人も餓死者を出さなかつたと言われています。

この催しは、当時の領民の心情と二宮金次郎の功績をしのび、7年前から開かれているものです。

当日は、地域住民約50人に粥や味噌汁、漬物等が振舞されました。そのほか、



寒空の下、あたたかい粥や味噌汁をほおばる。

那須烏山報徳会（大金正会長）では、11月30日(土)、円応公園で「炊き出し体験の集い」を開きました。

大金会長は、「助け合いの心や天地の恵を市民にももつと知つてもらいたい」と話していました。

烏山語りの会による「お救い小屋での炊き出し」の講話があり、参加者は興味深く耳を傾けていました。

タンザニア連合共和国 烏山消防署新庁舎を見学

昨年5月に本市が消防自動車3台を寄贈したタンザニア連合共和国から12月3日(火)、内務省消防救助隊のピウス・

ニヤンバチヤ局長等4人が本市を訪れ、烏山消防署や1月に完成予定の同新庁舎を見学しました。

消防車の仕組みを見学する視察団。

救命訓練などを披露しました。

ニヤンバチヤ局長は、「訓練の様子がとても素晴らしかった。ぜひ、タンザニアの若手の消防職員を研修させてほしい。また、寄贈された消防車は消火に大活躍している。今後も支援していただけるとありがたい」と話していました。

第7回市議会



平成25年度予算7会計で補正

一般会計総額は120億1024万円に

平成25年第7回市議会12月定例会が12月3日(火)から11日(水)までの9日間の日程で開かれ、
25年度補正予算や条例の一部改正など17議案を原案どおり可決、陳情1件を採択しました。

主な内容は次のとおりです。なお、詳しくは、議会事務局 0287-88-7114までお問い合わせください。

補正予算

○一般会計

歳入・歳出とともに3476万9千円
増額し、補正後の予算総額を1119億
9381万5千円としました。

主な内容は、9月に発生した台風16
号及び18号による災害復旧事業に伴う
農地災害普及事業費1990万1千円、
農業用施設災害復旧事業費2742万
円、林業用施設災害復旧事業費170
万円、土木災害復旧事業費1864万
2千円。東日本大震災で被災した自然
休養村施設の解体に伴う設計業務委託
料660万円。平成24年度障害者福祉
に係る各種国県負担金等の精算に伴う
償還金527万6千円。「子ども・子育
て支援法」に基づく制度改正に伴うシス
テム構築費用766万8千円などです。

○企業会計

簡易水道事業は、電気料金の値上げ
に伴う不足費用等171万6千円を増
額し、1億894万6千円としました。

水道事業は、収益的収入の雑収益等
を159万6千円増額し、5億423
万3千円とし、水道施設の機器修繕
等のため収益的支出を1278万円増

齢者支援金納付金の確定等に伴い97
71万5千円を増額し、36億4891
万5千円としました。

後期高齢者医療は、人間ドック検診
事業費等130万円を増額し、3億9
30万円としました。

介護保険は、人件費、居宅介護住宅改
修費及び高額介護合算介護サービス費
の保険給付費負担金等461万4千円
を増額し、24億6927万円としました。

下水道事業は、管渠修繕費用等69
7万8千円を増額し、3億8378万
3千円としました。

額し、5億4871万円としました。
また、資本的収入は、出資金・負担金
を572万円増額し、7693万2千
円とし、配水管布設工事等のため、資本
的支出の建設改良費を1988万円増
額し、4億3030万5千円としまし
た。

条例

市税条例の一部改正

「地方税法」等の一部改正に伴い、「那
須烏山市税条例」の一部を改正しまし
た。

市国民健康保険税条例の一部改正

「地方税法施行令」の一部改正に伴い、
「那須烏山市国民保険税条例」の一部を
改正しました。

市債権管理条例等の一部改正

「地方税法」の一部改正により市税の
滞納に係る延滞金の割合が見直された
ことに伴い、「保険料、負担金、使用料な
ど市税以外の諸収入金の滞納に係る滞
納金の割合」を市税と同様に見直すた
め、関係条例を一部改正しました。

議決

栃木県市町村総合事務組合を組織する
地方公共団体の数の減少、共同処理す

るため収益的支出を1278万円増

額し、5億4871万円としました。
また、資本的収入は、出資金・負担金
を572万円増額し、7693万2千
円とし、配水管布設工事等のため、資本
的支出の建設改良費を1988万円増
額し、4億3030万5千円としまし
た。



安心して暮らせるまちづくりのために。

る事務の変更及び栃木県市町村総合事務組合規約の変更

佐野地区広域消防組合の解散、消防救急無線設備の整備及び管理事務の共同処理の開始、下都賀郡岩舟町の栃木市への編入、栃木地区広域行政事務組合の解散等に伴う規約変更について議決を得ました。

栃木県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び栃木県後期高齢者医療広域連合規約の変更下都賀郡岩舟町の栃木市への編入により、栃木県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数が減少することに伴う規約変更について議決を得ました。

平成25年度農地・農業用施設災害復旧事業の施行

平成25年9月15日から16日発生した台風18号豪雨災害による農地・農業用施設災害復旧事業工事を市事業として施行することにしました。

那須烏山市ふれあい交流体験館(本館加工体験施設)の指定管理者の指定

今年3月に指定管理期間が満了したのに伴い、平成26年4月1日から平成29年3月31日までの3年間、「社会福祉法人大和久福祉会」を指定管理者として指定することにしました。

那須烏山市ふれあい交流体験館(観光いちご園／ブルーベリー園)の指定管理者の指定

今年3月に指定管理期間が満了する

のに伴い、平成26年4月1日から平成29年5月31日まで、引続き「大里いちご生産組合」を指定管理者として指定することにしました。

理大臣ほか関係大臣あて意見書を提出することを決定しました。その他陳情2件は継続審査としました。

追加議案

工事請負契約に関する紛争の和解

建設業法の規定に基づき栃木県建設工事紛争審査の仲裁に付していた「那須烏山市学校給食センター新築工事請負契約に関する紛争」について、市が請負業者に和解金として1643万425円を支払い和解することとしました。

それに伴い、平成25年度一般会計補正予算を1643万1千円増額し、120億1024万6千円としました。

陳情

「新聞購読料への消費税軽減税率適用を求める陳情」1件を採択し、内閣総理大臣に承認されました。

那須烏山市教育委員会会報

25年度『第3四半期』10月～12月

★第10回教育委員会(10月29日火)

○就学指定校の変更を承認

○要保護及び準要保護児童生徒の認定を承認

○就学指定校の変更を承認

○平成26年度小・中学校職員定期異動方針(案)を決定

○全国学力・学習状況調査の取扱いを決定

○就学指定校の変更を決定

★第11回教育委員会(12月2日月)

○那須烏山市教育委員会委員長の選挙

・委員長に平野加寿子氏が当選

○那須烏山市教育委員会委員長職務代理者の指定

・委員長職務代理者に滝口由美子氏を指定

○那須烏山市教育委員会教育長の任命
・教育長に池澤進氏を任命

○平成25年度那須烏山市教育費予算の補

◇

☆10月5日(土) 烏山小学校、荒川中学校運動会、文化祭出席

☆10月6日(日) サタデースクール開校式出席

☆10月12日(土) 下江川中学校、烏山中学校学校祭出席

☆10月19日(土) つくし幼稚園運動会出席

☆11月6日(火) 県市町村教育委員会委員研修出席

☆12月1日(日) 那須烏山マラソン大会出席

☆12月2日(月) 教育委員辞令交付式

7 広報那須烏山 2014.1

市民100人が人権を考える 人権フェスタ2013イン那須烏山

市では、12月8日(日)、烏山公民館で「人権フェスタ2013イン那須烏山」を開催し、約100人の市民が人権問題への意識を高めました。

この催しは、「人権週間」に合わせて、より多くの人に人権の大切さや共に生きることの素晴らしさを実感してもらい、人権問題に対する正しい理解と認識を深めるために行われているもので、県北6市町が輪番制で開催しています。

佐久間レイさんとよみうりカル



具沢山の新そばに舌鼓を打つ買い物客。



まちなかの直売所 秋の収穫祭で新そばサービス

烏山地区の市街地にある「とりたて野菜直売所」で、12月1日(日)恒例の「秋の収穫祭」が開かれ、近所の買い物客などにぎわいました。

この祭は、JAなす南と共同で毎年開いているもので、これが10回目です。新鮮野菜も普段より安く販売し、500円以上の買い物客には、市内産の新そばを野菜たっぷりのけんちん汁に入れた「けんちんそば」200食をサービスしました。

会長の大久保金夫さんは「ここは近所のお年寄り等が歩いてこられる、まちなかの直売所。地域サービスも兼ねた収穫祭ですから、これからも続けたい」と話していました。

当日は、好天にも恵まれ、近くの人達が歩いて買物に来ています、自慢のそばに舌鼓を打っていました。

チャーチ講師のピアニスト佐田詠夢さんを講師に、「心のストレッチ体操をしましよう」柔らかい心で受け止めたら、人間関係も自分に対する気持ちも、きっと変わってくる」と題した講演会が開かれました。講演会では、人権問題を訴える朗読劇や歌、ピアノの生演奏が披露され、参加者たちの心を打ちました。佐久間さんは、「人権週間が必要ない世の中になつてほしい。お互いを受け止められる心を持つことが大切」と話していました。

佐久間レイさんとよみうりカル

存会による熊田太々神楽「住吉舞」と「神舞」が笛や太鼓、大拍子の音色に合わせて披露され、参加者の目を楽しませました。

また、会場では、人権相談や市内小中学校の児童生徒による人権ポスター展示なども行われたほか、人権擁護イメージキャラクター「人K E Nあゆみちゃん」や「ここなす姫」等が来場者を出迎えました。

農産物こぶしつ子「感謝祭」珍しい「ばんだい汁」が大人気

11月23日(土)、農産物こぶしつ子(青木キミ子代表)では、日頃のご愛顧を込めて「感謝祭」を開催し、地域住民や常連客など多くの人が足を運びました。

当日は、会員が育てた野菜等で手作りした400食分の「ばんだい汁」や「粉もち」が無料で振舞されました。ばんだい汁は福島県でよく食べられ、肉の代わりにツナが入っているもの。その珍しさにこれまで手作りした。そのほか、特設販売所では、やきそばやおでん、ピザ等が販売されました。

青木代表は、「今回、クチコ



わきあいあいとした接客に笑顔。

第2回介護予防大会

認知症にやさしい 地域づくりのために



上：消費者リーダー那須烏山支部による寸劇。
／下：認知症の予防方法を教える永島徹副理事長。



市では、11月29日（金）、烏山公民館で「第2回介護予防大会」を開催し、地域住民約140人が参加しました。大会は、介護予防や認知症予防の必要性について地域の人々に理解を得ようと昨年度から開いているものです。

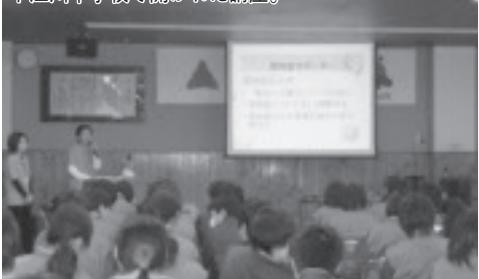
当日は、消費者リーダー那須烏山支部（秋原宣子代表）による寸劇「人生いろいろ認知症もいろいろ」が披露され、身近に起るテーマに、観客からは「参考になる」と大好評でした。続く講演会では、NPO法人風の詩の永島徹副理事長が、「じえじえじえ 認知症予防！」

認知症予防をおもしろく学ぶべえ」を講演。認知症の理解や認知症を予防するための「秘訣」を面白おかしく解説し、参加者の笑いを誘いました。また、リンク柄木ブレックス専属チアリーダーによる「介護予防ダンササイズ」では、参加者全員が身体を動かすなど、会場はわきあいあいとした雰囲気に包まれました。

そのほか、会場には、ふれあいの里

（向田・大木須・月次）、オレンジカフェ、いきいきサロン、脳元気教室による作品や救急情報キットの展示コーナーが設けられました。

下江川中学校で開かれた講座。



市では、高齢化が進むにつれ大きな課題となっている「認知症」を正しく理解し、家族・地域のために自分たちができることがや助けあう社会の大切さを子どもたちに気づいてもらおうと、小・中学校で「認知症サポーター養成講座」を開いています。

今年度は、7月に江川小学校の6年生、11月には全校生徒を対象に初めて下江川中学校で行いました。

認知症サポーター養成講座を開催

市内小中学校

講座は認知症について学んだ後、消費者リーダー連絡会烏山支部による寸劇を通して認知症の対応方法を考えました。

終了後アンケートでは、「認知症を理解し、やさしく接していくことが重要だと思った」「認知症はみんなで見守り、支えていくことが大切だと実感した」などの意見がありました。今後、2月には荒川小学校、荒川中学校で開催予定です。

オレンジカフェからお知らせ

「お待ちしています」と話すスタッフの皆さん。



市では、認知症の人と家族が過ごせる居場所として平成25年6月からオレンジカフェが開かれています。これは、市民カフェ35番館をお借りし、運営しているスタッフの協力を得ながら月1回（第4木曜日）開いています。

認知症が増加する中で、認知症になったから特別な場所に行くというのではなく、地域との繋がりを持ちながら地域で過ごしていくための試みです。また、認知症を抱えた家族が交流を通し、心を癒す場所としても利用できます。

詳しくは、健康福祉課高齢いきがい担当☎0287-88-7115まで。